

2022 年 12 月 6 日

公益財団法人みちのく未来基金
代表理事および業務執行理事業務報告

(報告対象期間:2021 年 10 月～2022 年 9 月)

【奨学金給付事業関連】

1. 奨学金の給付状況

第 3 期生から第 11 期生までの奨学生に対し、奨学金の給付を実施いたしました。

① 給付人数

第11期給付対象人数および第12期生の給付申請状況は以下の通りです。

◆第 11 期給付対象者数 (単位:人)

【学校種別内訳】

	出身高校所在地				
	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	270	83	148	15	24
国公立大学	30	11	13	1	5
私立大学	177	56	94	11	16
大学院	7	3	4	0	0
短期大学・専	54	12	36	3	3
海外・その他	2	1	1	0	0

【期生別内訳】

	出身高校所在地				
	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	270	83	148	15	24
3期生	1	0	1	0	0
4期生	1	1	0	0	0
6期生	6	3	2	0	1
7期生	5	1	4	0	0
8期生	53	16	28	4	5
9期生	65	17	36	4	8
10期生	71	21	45	3	2
11期生	68	24	32	4	8

※2022 年 9 月末現在

2022年9月末現在、第3期生から第11期生まで、奨学金給付を行っている人数は上表の通りで、合計270名です。なお、2021年10月から2022年9月末までに、自主退学等の理由により、12名について給付を停止しました。

基金発足時から2022年9月末現在、第1期生から第11期生までの延べ給付人数は1,044名です。

	合計	岩手県	宮城県	福島県	3県以外
合計	1,044	351	565	63	65
1期生	96	36	53	6	1
2期生	126	37	79	6	4
3期生	111	46	50	10	5
4期生	104	31	63	2	8
5期生	93	37	43	8	5
6期生	108	40	51	6	11
7期生	89	24	55	7	3
8期生	85	28	43	6	8
9期生	89	26	48	5	10
10期生	73	21	47	3	2
11期生	70	25	33	4	8

[第12期給付者数見込み]

第12期については2023年3月に85名が卒業予定で、第12期生としての進学希望者が58名いるため、第12期の給付者数は最大で243名となる見込みです。

② 給付予定金額

第12期奨学金給付予定金額

第4期生への年間給付予定金額	1,000千円
第6期生への年間給付予定金額	1,000千円
第7期生への年間給付予定金額	2,000千円
第8期生への年間給付予定金額	3,000千円
第9期生への年間給付予定金額	65,000千円
第10期生への年間給付予定金額	51,000千円
第11期生への年間給付予定金額	69,000千円
第12期生への年間給付予定金額	88,000千円
給付予定金額総計	280,000千円

第12期の給付予定金額は280,000千円になる見込みです。この2.8億円の試算をベースに年間の資金繰りを行ってまいります。

2. 第12期生の募集状況

2022年4月より、第12期生の募集を開始いたしました。

◆第12期奨学金給付希望者数（単位：人）

	12期生				
	合計	国公立 大学	私立 大学	短大・ 専門学校	志望校 未定
岩手県	16	3	10	3	0
宮城県	30	5	13	12	0
福島県	6	1	2	3	0
上記3県以外	6	0	6	0	0
合計	58	9	31	18	0
比率	100.0%	15.5%	53.4%	31.0%	0.0%

※上記の表は9月末時点での奨学金給付希望者で、合格後に奨学金の給付が開始されます。

2023年春高校卒業予定の震災遺児は77名で、そのうち進学希望者は52名です。また、2021年春以前に高校を卒業し、現在浪人中の進学希望者が6名いるため、第12期生としての奨学金給付希望者数は合計58名となります。

3. 第13期生以降の対象者の把握

厚生労働省が2015年9月時点の震災遺児の居住地状況を把握したデータから、全国の震災遺児の総数は1,782名（うち岩手・宮城・福島の被災3県以外は171名）となっており、基金で独自に被災3県をはじめ、全国の該当する行政窓口、教育委員会、中央共同募金会（赤い羽根）等、様々な機関へのアプローチを実施した結果、第13期生から第20期生まで合計244名（うち3県以外は19名）について、支援予定者として把握いたしました。

4. 選考委員会の開催

「第12期生選考委員会」

内閣府の公益法人（助成型）の認可要件として、奨学生の認定について公平性・公正性の担保という観点から選考委員会の設置が求められており、これに基づき次の通り開催いたしました。

2022年8月27日（土）11:00-13:00（於：ホテルメトロポリタン仙台 桃李）

・選考委員

横田 昭彦 元岩手県立高田高等学校長
庄司 恒一 元宮城県高等学校長協会長 ・ 元宮城県仙台第二高等学校長
杉 昭重 元福島県教育委員会教育長 ・ 元福島県立安積黎明高等学校長

・事務局

長沼孝義、齋藤雅子、今吉成和

第12期奨学金給付対象者（2023年4月からの奨学金給付開始予定者）について、東日本大震災の遺児であることの確認、および進学先についての承認を諮り、了承をいただきました。

5. 年次面談の実施

2021年9月から11月にかけて、東京・仙台・盛岡の3会場において、奨学生全員との面談を実施

いたしました。この面談は、基金スタッフが全ての奨学生の話聴ける年に一度の機会であり、学生生活の様子や困りごとなどを聴き、奨学生の心のケアにつなげることを目的に、基金のもっとも重要な活動となっています。コロナ禍が継続している状況に鑑み、前年に続いて直接面談かオンライン面談かをみちのく生が選択できるようにしました。約半数の学生がオンライン面談を選択しました。オンライン面談はコロナの感染を防ぐ、面談時間の制約が少ない、遠方在住の学生でも場所を選ばない等のメリットがあります。

6. 「第 11 期生の集い」

2022 年 3 月 26 日(土)に仙台国際センターにて「第 11 期生の集い」を開催しました。

対面での集い開催は 2019 年 3 月以来 3 年ぶりとなります。コロナ禍の状況を踏まえてみちのく生のみの参加とし、2 時間という短い時間ではありましたが、新入生の門出と卒業生の旅立ちをお祝いしました。

4 月に進学する新入生 24 名と、3 月で卒業を迎えた卒業生 9 名の計 33 名が参加してくれました。また今回は現役の先輩みちのく生 4 名に加えて、既に社会人となった OBOG みちのく生 7 名がサポートスタッフとして参加してくれ、非常に頼もしい先輩ぶりを発揮してくれました。

2023 年 3 月 26 日にはサポーターの皆様もお招きして「第 12 期生の集い」を開催したいと考えています。

7. 夏の交流イベント

5 月と 6 月にバーベキューイベントを東京と仙台で行う予定でしたが、飲食を伴うイベントの実施は難しいと考え、代替として 5 月 22 日と 29 日に埼玉・仙台で日帰りのイベントを開催しました。いずれも VS PARK というアミューズメント施設を利用し、数人ずつのグループに分かれてゲームを楽しみました。参加したみちのく生どうして仲良くなり連絡先を交換するなど、新たなつながりも生まれました。また 8 月 18・19 日には 1 泊 2 日で「夏の集い」を開催し、3 年ぶりの宿泊イベントが復活しました。

8. みちのく未来基金 SNS の活用

2020 年 9 月より、みちのく生と基金スタッフ間の連絡ツールとして新たに「エアリー」というアプリケーションを導入いたしました。約 2 年間使用してまいりましたが、みちのく生との連絡が非常に取りやすくなり、十分に活用できております。

【法人運営関連】

9. 寄附金受入状況

第 11 期は総額 174,811,834 円のご寄附をいただきました。このうち奨学金給付費用指定寄附金は 23,433,554 円であり、第 10 期から約 116 百万円の減となりました。

2020 年 9 月末時点で奨学金給付指定の残高が約 19 億円となり、今後 15 年間で給付予定の試算額に達しました。この状況を受け、2021 年 2 月から 5 月にかけてサポーターの皆さま全員に、御礼とご報告を含め寄附停止・減額の案内文をお送りしました。

寄附金内訳(第 11 期 2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日迄累計)

		金額(千円)	金額比率	件数	件数比率	人数・ 法人数等	人数・ 法人数等比率
寄附金合計	個人	73,983	42%	3,212	95%	494	87%
	法人・団体	100,829	58%	176	5%	72	13%
	計	174,812	100%	3,388	100%	566	100%
奨学金給付費用 指定寄附金	個人	11,350	48%	3,204	96%	486	90%
	法人・団体	12,083	52%	149	4%	52	10%
	小計	23,434	100%	3,353	100%	538	100%
運営費用 指定寄附金 ※4社分を含む	個人	62,633	41%	8	23%	8	29%
	法人・団体	88,746	59%	27	77%	20	71%
	小計	151,378	100%	35	100%	28	100%

10. 第 11 期決算

決算報告書にて別途ご説明いたします。

11. 広報活動

・「みちのく未来通信」の発行

寄附者や奨学生等の基金関係者に対して、みちのく未来基金の現状をお伝えする広報紙「みちのく未来通信」を、2022 年 1 月(第 30 号)、5 月(第 31 号)、9 月(第 32 号)に発行いたしました。

・基金ホームページの改訂

基金のホームページについては随時改訂を行っております。

・Facebook の利用

月 1～2 回の頻度で記事の更新を行い、閲覧回数を増やすようにしております。奨学生の閲覧も多く、交流が深まるきっかけともなっています。

12. その他特記事項

①サポーター訪問の実施

奨学金給付指定寄附金が必要額に達したことを受け、これまで長期に渡ってご支援いただいた企業を中心にお礼と活動報告の訪問を実施しました。また、運営費としてのご寄附を開始いただいた企業へも同様に訪問を実施いたしました。

② 内閣府立ち入り検査

8 月 26 日に内閣府による定期立ち入り検査が実施されました。

③ 基金スタッフの働き方の変更

新型コロナウイルス感染防止を目的に、マスクの着用と合わせ 2020 年 4 月よりスタッフの交代出勤、在宅勤務、時差出勤を行っています。現在は 10 時から 17 時までの出勤時間とし、事務所出勤者の人数制限は撤廃いたしました。

13. みちのく未来基金の運営スタッフ体制について

前回の評議員会以降、次の通り基金メンバーの変更がありました。

- ① エバラ食品工業株式会社から派遣されていた北川宣人が2022年3月に基金を離れました。
- ② ロート製薬株式会社から派遣されていた佐々木崇吏が2022年4月に基金を離れました。
- ③ エバラ食品工業株式会社から新たに土川桃子が2022年4月から基金スタッフに加わりました。
- ④ ロート製薬株式会社から新たに長津大裕が2022年5月から基金スタッフに加わりました。

2022年9月末時点のみちのく未来基金事務局のスタッフ構成及び業務担当は以下の通りです。

<みちのく未来基金事務局>

長沼 孝義	: 代表理事(全体責任者)
齋藤 雅子	: 業務執行理事(現場統括、内務業務統括)
佐藤 美甫	: 内務業務(寄附金管理、総務経理事務)
今吉 成和(カゴメ株式会社)	: 学校訪問業務統括
伊藤 健人(カルビー株式会社)	: 学校訪問(岩手県担当)
土川 桃子(エバラ食品工業株式会社)	: 内務業務(奨学金給付)
長津 大裕(ロート製薬株式会社)	: 学校訪問

以上